

**授業概要**

乳幼児および児童・生徒の発達について、身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の特徴と相互の関連性についての基本的な知識を学ぶ。その際、ピアジェ、ヴィゴツキーなどの代表的な発達理論を基に、発達を規定する内的、外的要因およびその相互作用などの観点について理解する。また、子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかわりや援助のあり方を学ぶ。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）、発達とは何か
第 2 回	人として生まれる：発達を捉える視点
第 3 回	保育、教育実践に関わる発達の理論
第 4 回	乳児の運動機能の発達
第 5 回	乳児の知覚機能の発達
第 6 回	身体的コミュニケーションの発達：基本的信頼感の獲得
第 7 回	自我の発達と自己意識の形成
第 8 回	ことばの発達と社会性のそだち
第 9 回	幼児期の心の理解の発達
第 10 回	児童期の思考
第 11 回	児童期の自己概念と社会性
第 12 回	青年期以降の発達
第 13 回	文化と発達
第 14 回	教育と発達
第 15 回	発達の理解と子ども観、教育・保育観
第 16 回	定期試験

**到達目標**

- ・子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
- ・子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解し、援助の基本となる子どもへの理解を深める。
- ・子どもの学びの過程を理解し、育ちを支えていく体験、環境の役割を理解する。

**履修上の注意**

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

**予習・復習**

予習として、予め配付する資料に目を通しておくこと。  
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

**評価方法**

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。  
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

**テキスト**

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。  
授業内で適宜、参考文献を紹介する。